

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

秋田県信用組合
会長 北林 貞男氏

1947(昭和22)年旧合川町生まれ。

旧秋田県立大館高校卒業後、1966(昭和41)年旧北秋信用組合に入組。2009年(平成21)年には秋田県信用組合理事長に就任し、2023(令和5)年6月より秋田県信用組合会長を務める。

長年に亘る信用組合業務精励の功績を顕彰され、2013年黄綬褒章を受章、2019年旭日双光章を叙勲。



協同組織金融機関として「しんくみ」らしく、お客様と一緒に地域をつくる

工藤 本日はよろしくお願いたします。早速ですが北林会長の幼少の頃の生い立ちやご経歴についてお聞かせください。

北林 私は1947(昭和22)年、北秋田市の旧合川町出身です。子供の頃は一言で言えば楽しかったですね。当時は貧乏とまでは言いませんが、皆が同じような暮らしをしながら分かち合っているような時代でした。風光明媚な自然に恵まれた環境の中、子供の知恵で様々な遊びを創造し毎日を楽しんでいました。釣竿を使わずにヤマメやアユなどを採ったものです。高度成長に伴い自然環境が変わってしまいましたから今は難しいですね。経済成長にとまとう今日の日本や秋田があることを考えると致し方ない側面もありますが、少し寂しくもありますよね。中学卒業後は自身の発展性を求め、当時の自分からは近代的に見えた大館の旧秋田県立大館商業高校に進学しました。高校卒業が間近に迫った頃、急遽親の勧めで友人と一緒に就職試験を受けに行くことになりました。結果は私1人だけが採用となり、1966(昭和41)年秋田県信用組合に入組しました。その後1990(平成2)年に秋田県に散らばっていた4つの信用組合が合併し、新生秋田県信用組合となりました。私は1995(平成7)年秋田市に転勤を命じられたのですが、旧信用組合時代からの仲間の存在や環境の良さなどもあ

り、最初はあまり気乗りがしませんでした。しかし信組を発展させたいという思いから退路を断ち、色々な覚悟を持ってまさに身一つで秋田市にきました。

工藤 理事長に就任したのはいつですか？

北林 理事長職は2009(平成21)年から務めております。その当時から言い続けていることとして、我々は存在感が薄い。タクシーの運転手さんも知らない職場なんて情けないと。知名度を上げていこうと訴えてきました。その為に、職員が誇らしく思える仕事を！他が評価してくれる仕事を！やっていこうと。まずは金融機関として、職員全員がお客様の財務内容をよくする為に、顧客目線でローンレビューについて考えていくことが大切だと提唱してきました。秋田は自殺率が高いという問題があります。背景要因の一つに多重債務があります。実際にそうってしまった方も過去には沢山いました。しかしそこに陥るまでのプロセスも絶対にあるはずですから、お客様を一人で悩ませずに、我々も一緒に考え再生していくという姿勢が大切だと。だからこそ私たち金融機関にとってローンレビューはとても大切な責任だと思っています。命に代えられるものは決して無いのですから。

工藤 なるほど。ローンレビューという言葉が初めて聞きました。「貸しっぱなしにしない。」とても大切なことですね。私も経営

者の一人として心に留めたいと思います。最近の社会環境の中で影響を強く受けていることなどはございますか？

北林 環境対策ですかね。特に環境配慮型の店舗づくりに力をいれています。例えば東日本大震災の前年に設計した泉支店は、秋田杉のベレットを活用し、店舗の暖房や融雪ポイラーなどを使用しています。また太陽光エネルギーも導入し店内の照明などに使用しています。一時的なコストは高くなりますが、環境のための投資と考えました。手形支店も同様の考えで地熱を活用して冷暖房を使用しています。他にも営業車は積極的に国産EVカーを導入し、自家発電した電力を使用し、休業日に蓄電したソーラー電気を営業日に使用しています。まずは自分たちでできることから取り組もうという気持ちでやっています。秋田からヤマメやアユが全くいなくなるとさみしすぎますから、できることからコツコツと。

工藤 素晴らしいですね。まさにSDGsですね。話は変わりますが、現在の組織課題などはございますか？

北林 「しんくみ」らしさを磨くことが課題です。秋田の人口減少が加速する中で、今こそ我々の協同組織金融機関というものの良さが何かを自らが理解し、またお客様にも理解していただくことが重要です。私たち信用組合は、少し専門的に言いますと「協同組織金

あきたBIZフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

融機関」と表現されます。わかりやすく言えば、「地域密着型の金融機関」ということです。銀行とは少し異なる存在で、秋田県内という限定された地域の顧客とだけビジネスをします。つまりところ秋田県を良くしなければならぬわけです。一人でも多く地域のお客様の成長をサポートし、一人でも多く創業や事業再生のお手伝いをする。そして首都圏など県外からお金が得られる企業を増やし、地域で多くのお金を循環させる。我々が協同組織金融機関として「しんくみ」らしく、お客様と一緒に地域を作っていく、成長していく、その推進力をより高めていくことが重要課題だと考えます。

工藤 協同組織金融機関。これまた今日初めて聞いた言葉でした。地方都市にはとても大切な機能ですね。ささほど創業という言葉も出ましたが、秋田の中で今後期待感を感じるようなビジネス分野はございますか？

北林 秋田の目玉は再生エネルギーと農業だとずっと思っています。特に洋上風力は、関連事業などの仕事を地元企業が請け負うことで、経済効果を得られるようにしていかなければなりません。小さくても地元でそういったことを一生懸命やっている方に頑張ってもらいたいですね。ベンチャースピリットにはリスクもありますが、地元企業が頑張っていく限り、若い人達が地元に残ろうという気になりにくい。時に、大手や外資系が来るとそちらに吸い取られてしまうのではないかと心配になります。

工藤 以前の経済白書ですが起業して10年後に存続できる企業は10%というデータを見たことがあります。やみくもに起業を促すのではなく、「継続できる起業家」を増やすことで、結果起業する人が増えるということを先に考えるべきと思っています。先程のローンレビューの話もまさにそうですね。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J-MOTHERS 藤田 幸

企 画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

